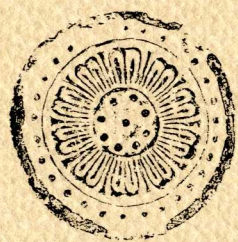


大分市歴史資料館年報



1991

は じ め に

4月より、佐藤興治館長のあとを引き継いでから1年が経過いたしました。

本年度は、歴史資料館開館以来最も大きな特別企画展として「はるかなる長河 ― 中国武漢文物展」を開催いたしました。大分市と中国武漢市の友好都市締結10周年を記念して企画され、十分な準備を経て実施されたものです。開催の準備から終了まで資料館職員の努力のあったことはもちろんですが、中国武漢市・大分市の全面的協力を得て成功裏に終了いたしました。また会期中に開館以来4年目で15万人目の入場者を迎えることができました。展示した文物は、原始時代から近代までの中国文化を代表する品々で、市民の関心を呼びましたが、それとともに随展員として来日されていた武漢市・市博物関係者と市民との国際交流も多く見られ、国際親善の華が咲いたことにも意義がありました。

さて、資料館活動のうち普及活動である、各種講座、映画会などは一応軌道にのり、一定の評価を得られるようになってきていると思われませんが、調査研究活動の方は短期的な特別展に対する資料調査が主となっており、長期的な展望に立った調査研究活動は、いまだ十分とはいえないのが現状であります。当館が、大分市における歴史遺産の研究・保存・継承のセンターとして機能できるよう内容整備に努めてゆきたいと考えております。

ここに、平成2年度の事業概要をまとめて年報として発刊いたしますが、市民の歴史資料館としてさらに一層の充実をはかるため広く各方面の皆様の暖かいご指導とご支援とを賜りますようお願い申し上げます。

平成3年3月31日

館 長 木 村 幾多郎

目 次

展 示	1
常設展示 特別展示	
資料調査	7
研究レポート	15
教育普及活動	20
ふるさとの歴史講座 史跡めぐり講座	
夏休みジュニア講座 陶芸講座 はた織講座	
歴史を映画で見る会 刊行物 博物館実習	
資料の利用・貸出	
資料収集	24
図 書	28
資料館利用状況	32
管理及び運営	34
歴史資料館協議会 組織・職員	
予算 施設管理業務の内容	
施設の概要	36
日 誌 抄	38
利用案内	40

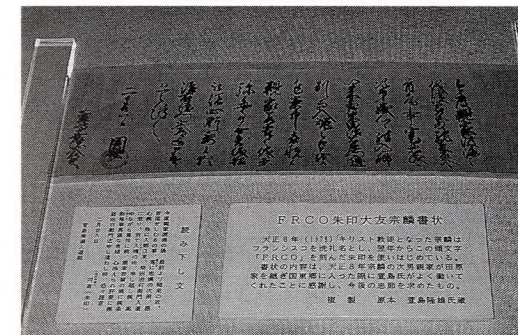
展

常設展示

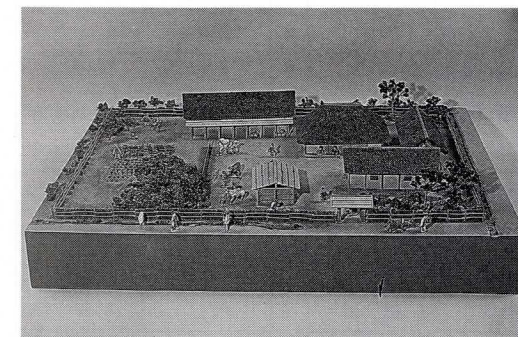
本年度は次のような事業を実施した。

- (1) 黒漆五枚胴具足・筋兜の展示
- (2) FRCC朱印入り大友宗麟書状の複製製作
- (3) 大分市宮苑遺跡中世名主居宅跡復原模型(1/50)製作
- (4) パソコン学習新ソフト製作

(1)は松栄神社に伝わる府内藩主大給家所用のもので、当館の寄託品。手甲部分や袖の金具に大給家の紋である「釘ぬき」の紋が施されている。(2)は萱島美濃入道あてに出された大友宗麟の書状。円斎の署名と宗麟のキリシタン名であるフランシスコを刻んだ朱印が押されており、宗麟のキリスト教信仰の一端を示す貴重な史料。次子大友親家の「入郷」と、彼への心づえを頼んだ内容からして、親家が田原氏の家督を継いだ天正8年(1580)に出されたものと考えられる。(3)は、市内宮苑で発見された中世の遺構をもとに復原した建物模型。主屋を中心に5棟の建物を備えた遺構から武士クラスの住まいであったと思われる、特に当地は豊後の一宮であった由原八幡宮領であったことから、荘園の年貢・公事をとりまとめた名主の館であったと想定される。以上、近世・中世の展示内容の充実を行った。(4)パソコン学習新ソフトの製作では、現在の常



FRCC朱印入り大友宗麟書状の複製



宮苑遺跡中世名主居宅跡復原模型(1/50)

示

設展示内容を補足する意味で、「日本近代史のクイズ」を作成した。明治、大正、昭和の年代ごとにコースを設定、それぞれ主な事件を5つずつ取り上げ、戦後までの時代の大きな流れを学習することができるようにした。明治のコースでは、①王政復古の号令、②文明開化、③殖産興業、④自由民権運動、⑤条約改正に関する問い、大正のコースでは、①大正デモクラシー、②大正景気、③米騒動、④国際連盟、⑤軍縮と造艦競争に関わる問い、昭和では①満州事変、②2.26事件、③三国同盟、④GHQ、⑤サンフランシスコ講和条約の内容となっている。

パソコン学習新ソフト



資料 収 集

寄 贈

考古資料

○箱式石棺 1 式 首藤雅一氏
大分市大字曲二ノ迫において、大分工業高校建設のための造成工事中に発見された。発見者の首藤氏の話では、県教育委員会文化課に確認してもらい、そのまま自宅に持ち帰ったと言う。結晶片岩製。墳形は円墳であったと考えられるが、現在消滅しているため規模など詳細は不明である。

歴史資料

○仙石橋欄干 1 点 大石有孝氏
江戸時代、住吉川に架かっていた仙(干)石橋の欄干の一部と考えられる。石材は凝灰岩。正面に「天保六年乙未六月 仙石橋」の銘と石工の名前が刻まれている。大石氏の話では、戦前から自宅の庭に立てられていたと言う。
○開元通宝 3、貞元重宝 2、宋通元宝 1、太平通宝 2 至道元宝 1、咸平元宝 4、景德元宝 3、祥符元宝 3 天禧通宝 2、天聖元宝 2、皇宋通宝 17、嘉祐元宝 1 嘉祐通宝 1、治平元宝 2、熙寧元宝 4、元豐通宝 9 元祐通宝 8、紹聖元宝 4、元符通宝 4、聖宋元宝 6 大觀通宝 1、政和通宝 3、慶元通宝 1、洪武通宝 3 永樂通宝 6、〇〇通宝 1、寛永通宝 3、

以上古銭 97 点 鹿島正一氏

621年鑄造の開元通宝から1408年の永樂通宝まで約800年間のわたる中国銭と江戸時代の寛永通宝。大分市大字浜の道路工事現場で一括して発見されたと言う。

民俗資料

○ちぎ・分銅 1、丸斗升 1、ならし棒 1、薬研 1 以上 5 点 三浦友子氏
○初摺機 1 点 釘宮幸子氏
○車長持 1、往診箱 1、笠 1、綿繰機 2、糸巻 7 以上 12 点 秦加久一氏
○唐箕 1 点 首藤利夫氏
○唐箕 1 点 山崎一郎氏
○棺桶 1 点 甲斐登志郎氏

寄 託

歴史資料

○渡辺文書 23 点 河村節子氏
大友宗麟書状・義統書状各 1 通と近世・近代文書 21 通。宗麟と義統書状は紙質からすると写しのようなものである。また、大友家当主と大友家庶流で江戸時代熊本藩に仕えた松野家当主の戒名と没年を記した綴がある。
○竹中村絵図 1、屋敷図 1、豊後細見絵図 1、九州全図 1、長崎図 1、大分県大区小区一覧表 1

以上 6 点 橋本吉秀氏

江戸時代、熊本藩領高田手永竹中村の庄屋を務めた橋本家に伝わる絵図。竹中村絵図は手書手彩で村全体を描き、右端に「亨和二歳壬戌三月写之者也」の墨書がある。長崎図(安永 7・1778)・九州全図(文化 10・1813)・豊後細見絵図(天保 13・1842)の 3 点は木版すりで、一般に市販されていたもの。大区小区一覧表は円内部を大区ごと(郡ごと)に分け、各小区に属する村々を書き上げている。明治 8 年(1875)の発行。

○歩兵第 47 連隊関係写真 1824 点、戦前・戦後の大分関係写真 257 点、カメラ機材 6 点、第 47 連隊戦闘実写 16 ミリフィルム 1 点、従軍用品 40 点、新聞切抜き・書籍 87 点 以上 2215 点 秦 正昭氏
太平洋戦争中に大分歩兵第 47 連隊の従軍カメラマンをつとめた秦卓月氏が撮影した戦場記録写真と戦前・戦後の大分市内各地を写した写真一括。戦場写真は日中戦争関係が中心である。

美工資料

○敵島図屏風(波奈之丸屏風)六曲一双 首藤規行氏
熊本藩主細川氏が参勤交代の際使用した御座船「波奈之丸」に飾られていたと伝えられる。右隻は安芸敵島神社本殿と参詣する人々、左隻には門前町の賑わう様子を描いている。絵師は不明であるが、江戸時代初期の製作と考えられる。 大分市指定有形文化財
○豊後刀 1 点 山田芳久氏
代々府内藩刀工を務めた富田家 8 代盛利の手になる刀。表に「豊府家土神孤丸盛利行年七十才作」、裏に「天保九戌年二月日任望角幸安鍛之」の銘がある。

刀長 72cm、反り 1.8cm 大分市指定有形文化財
○青糸威五枚胴具足一式 岡本通男氏
府内藩の家老を勤めた岡本家に伝来した具足一式。当世具足をさらに簡略化した五枚胴で、胸半分を桶側下半分を青糸で威している。府内藩士家に残る数少ない資料である。

移 管

歴史資料

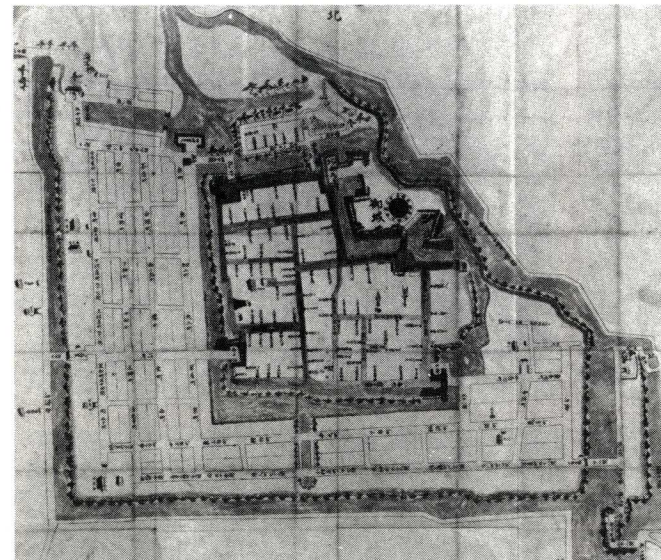
○日根野時代府内藩領図 1、府内城下町絵図 1 以上 2 点、教育委員会社会教育課
市民の方から市教育委員会社会教育課に寄贈された絵図 2 点が移管された。

藩領図は日根野吉明が藩主であった時期を描く。府内藩領図としては最古のもので、日根野時代の関係資料はほとんど残っていない大変貴重である。城下町絵図は大分県立図書館蔵の享和 2 年(1802)「清水流規矩法分間絵図」と同系統で三の丸武家屋敷に居住者の名前が書き込まれている。

美工資料

○猿紋入羅紗地羽織 1 点

会計課



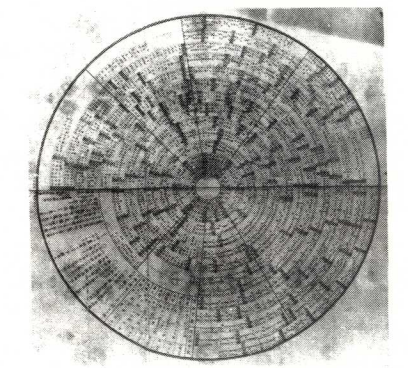
府内城下町絵図



竹中村絵図



青糸威五枚胴具足



大区小区一覧表



敵島図屏風(右隻)

購入

歴史資料

○16～17世紀ヨーロッパ製作の古地図 5点

- ・オルテリウス アジア図 銅版着色 45.3×57.0cm
- ・同 東インド図 " 47.7×55.3cm
- ・同 鞆図 " 43.5×55.7cm
- ・テイセラ 日本図 " 41.3×53.9cm
- ・スピード 中国日本図 " 42.2×54.3cm

日本が描かれているヨーロッパ製の古地図。上記3点は1570年発行のオルテリウス編世界地図帳「地球の舞台」(初版)に所収されていた。日本図は同書の第3版(1595年)に所収された日本単体図としては初めてのもの。イエズス会宣教師達により多くの情報をもたらされ、ブンゴ・ヒジ・フナイといった大分関係の地名が書き込まれている。中国・日本図は1626年刊のスピード著「明王国」所収の地図。地図の周囲にはマカオ等の都市図と各国の人物図が配されている。

○イエズス会報告書 3点

- ・永禄年間イエズス会士日本・東洋書簡集

1575年初版 ベネチア刊 189p 15.7×10.8cm
1561・62年に宣教師が中国や日本からローマ本部に提出した書簡19通をまとめたもの。特に豊後から発信された1561年8月8日付けのフェルテナンデスの書簡は府内教会で日々の活動や祭礼日の儀式の様子などが詳しく、当時の布教活動を知る貴重な資料である。

- ・天正7～9年イエズス会日本通信

1584年第3版 ミラノ刊 158p 15.6×10.8cm
1579年～81年に宣教師が日本から出した書簡集。豊後関係記事では日常の布教活動とその成果のほか、田原親宏・親貴、田北紹鉄の反乱の様子が報告されており国内の政治状況が詳しくわかる。なお、表紙裏に処刑されるキリストとその下に膝まづくザビエルを描いた手彩着色の絵がある。

- ・天正10年日本年報

1585年初版 ミラノ刊 103p 15.9×10.8cm
1582年肥前口ノ津からルイス・フロイスがイエズス会総会長にあてて提出した布教活動報告。臼杵での復活祭の壮麗な儀式の様子や大友宗麟が万寿寺や宇佐神宮を焼き打ちした事件について述べている。

○府内藩主大給氏書状 3点

- ・第6代大給近信書状 (文化6年) 正月二日付け
宛名 玉置舎人 包紙付き 切紙 16.8×70.7cm
すでに隠居していた近信から国元の家老玉置氏あてた年賀状。包紙に異筆で「文化6己巳年正月六日出、二月二日着、頂戴」との註記がある。
- ・第8代大給近訓書状 (文化9年) 正月二日付け
宛名 玉置舎人 包紙付き 切紙 16.3×67.7cm
藩主近訓から家老玉置氏あてた年賀状。包紙に異筆

で「文化九申ノ年正月二日出、同廿六日着」の註記がある。

- ・第9代大給近信書状 (年未詳) 五月九日付け
宛名 津久井四郎右衛門・木戸孫九郎・戸田三之丞
包紙付き 切紙 17.7×59.4cm

大給家へ養子に入ることが幕府から許可されたことを報告した手紙。近信は富山藩主前田利幹の次男であった。

○丹生地区関係庄屋文書 14点

臼杵藩領であった海部郡屋山・丹生原・一木・岡・久所各組の大庄屋が藩の代官所に提出した各種の許可願書。中心は婚姻や養子など縁組のため村から移動することを願い出た覚えで、12通ある。

○極窮者御歎申上御帳 寛政5年 綴 24.7×16.8cm

臼杵藩領市尾村弁指(庄屋)が村内12家族分について納入できない年貢の免除を願い出た書類。

○熊本藩御達 弘化3年正月13日 軸装 15.3×60.5cm

熊本藩領田浦村中と同村為八に下した御達2通を軸装している。内容は日頃の行動に褒美を与えたもの。美工資料

○源氏物語絵 1面 「若紫」 額装 36.2×56.5cm
一昨年度以来購入している源氏物語絵と一連の資料で巻5「若紫」の一場面を描く。画面はある春の夕暮、病氣平癒祈願のため北山の僧都を訪れた源氏がかわいらしい少女若紫を見だすという物語前半のハイライト場面である。屋敷の中央では若紫が「雀が逃げてしまった」と泣いており、それを源氏がのぞきみている。

○熊本藩主細川氏御座船入港図 2点 軸装 紙本着色
明治時代初期 60×79.8cm 60×92.2cm

参勤交代の帰りに鶴崎に入港する熊本藩主細川氏一行の船団を描く。旧熊本藩領の神社旧蔵品と伝えられる。永青文庫には明治15年「御船入港図巻」があり、本資料はこれと構図・色彩に類似性が認められ、同時期に往古を偲んで描かれたと考えられる。

○府内藩主大給家家紋入り長文箱 1箱 全長39.0cm
蓋と身の表に陰と陽の研ぎだし平蒔絵釘貫き紋があらわれており、府内藩主大給家で使用されていた長文箱と考えられる。

○花鳥文蒔絵螺鈿洋櫃 1点 3 0.3×48.6×23.6cm
桃山時代、ヨーロッパからの注文により国内で製作された輸出用のいわゆる南蛮漆器。黒漆塗りの画面全体に金の平蒔絵と螺鈿を併用した花鳥文が描かれる。

複製品製作

○大友宗麟FRCO朱印書状 1点 原本萱島家文書
宗麟が洗礼以後使用したアルファベットのFRCOを組み合わせた朱印のある書状。

○宮苑遺跡模型(50分の1) 1点

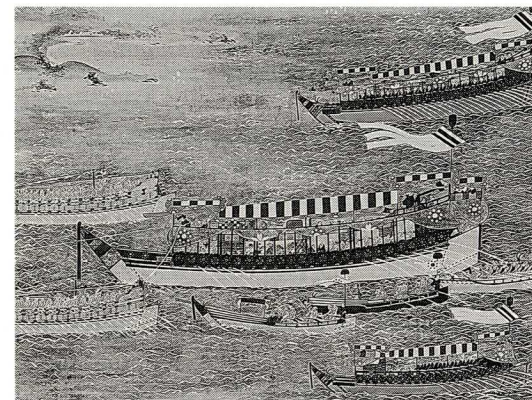
中世の建物遺構が見つかった宮苑遺跡の復元模型。同地は杵原八幡宮領賀米荘千代丸名に比定され、その規模から、名主クラスの裕福な農民の屋敷と考えられている。



テイセラ 日本図



天正10年 日本年報



細川氏御船入港図



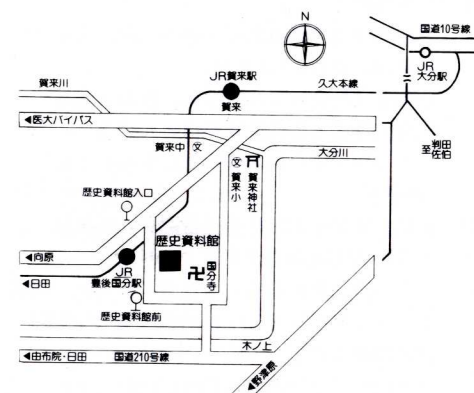
花鳥文蒔絵螺鈿洋櫃



源氏物語絵「若葉」

利 用 案 内

- 開館時間 午前9:00～午後5:00
(入館は午後4:30まで)
- 休 館 日 月曜日(祝日にあたるときは翌日)
祝日の翌日
年未年始(12月28日～1月4日)
- 観 覧 料 大 人 200円(団体150円)
小中高生 100円(団体50円)
(市内の小学生は無料です)
- * 団体は30名以上
 - * 特別展の開催中は別料金になる場合があります。
- 交通機関 JR久大線
○豊後国分駅下車
大分バス
○歴史資料館前下車
歴史資料館前ゆき(松ヶ丘経由)
(木ノ上経由)
- 歴史資料館入口下車
国分新町ゆき
向原ゆき(賀来経由)
今畑ゆき(")
中村ゆき(")
竜原ゆき(")



大分市歴史資料館年報

1991

発行日 平成4年3月31日

編集・発行 大分市歴史資料館

大分市大字国分960番地の1

〒870 (0975)49-0880